



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1931, 16(1): 72-77

ISSUE DATE:

1931-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183919>

RIGHT:

教科書にはこの種の引抜きが多いから、兩君はその世想に追従して、種明しに本書を出されたのであらう。一寸思ひつきの出版物であると思ふ。(藤田)

報

○世界の人絹業

人絹工業の發達歴史は近々半世紀に満たない。即ち紀元一八九一年に佛人シャル・ドンネ伯によつて初めて人造絹絲業が生産的に發明せられてより今日まで四十年である。其間幾多の變遷を経たが此が眞の工業的價值と其發達を見たのは近々二十年前からである。

然るに其發達の急速なる事、質及量と共に驚くべき進歩を來した事は世の驚異で今や世界有数の大産業となり、一九三〇年推定生産高は別表の通り四億二千萬ポンド、此等の人絹會社は約二百社、其投資額は二十餘億に達すると言はれてゐる。従つて天然蠶絲を超過する事其産額は約四倍乃至五倍といふ數量に達してゐる。

かく驚くべき長足の進歩を來しつつある人造絹絲業が世界一の養蠶國たる我國に與へつつある打撃如何、又將來の人造絹絲業及び我國に於ける斯業發展の狀態如何につき二三の方面より觀察せん。

今外務省通商局の發表による世界に於ける人造絹絲の生産高を表示すれば左の通りである。

世界人絹生産高(單位千ポンド)

年次	數量
一九二四年	一四一、一六四
一九二五年	一八五、〇〇〇
一九二六年	二一九、〇八〇
一九二七年	二六五、九〇〇
一九二八年	三四三、五五〇
一九二九年	四〇四、一五五
一九三〇年(推定)	四一九、九一一

右表によると年々驚くべき發展の跡を示し、一九二四年と一九二九年の近々六ヶ年間に於ける生産高は約三倍といふ異狀な増加を示してゐる。

尙世界主要各國に於ける生産高を見るに左表の通りである

世界主要國人絹生産高(單位千ポンド)

國別	一九二八年	一九二九年	一九三〇年(推定)
アメリカ	九七、七〇〇	一二三、一三〇	一三〇、三六九
イタリ	四七、〇〇〇	五九、〇〇〇	六六、〇〇〇
イギリス	五一、〇〇〇	五三、〇〇〇	五〇、六〇〇
ドイツ	四一、〇〇〇	四五、〇〇〇	四四、〇〇〇
フランス	三〇、〇〇〇	三七、〇〇〇	四〇、八一〇
日本	一二、〇〇〇	一八、〇〇〇	二六、四〇〇
オランダ	一六、五〇〇	二〇、〇〇〇	一七、六〇〇
ベルギー	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一二、三二〇

其 他 三三、三五〇 三三、九二〇 三一、八一二
合 計 三四三、五五〇 四〇四、一五〇 四一九、九一一

右表を一覽するに最多はアメリカ合衆國にして一九三〇年
(推定)には世界全産額の約三分の一強を占め、斷然世界の斯
業に雄飛してゐる。次は伊太利にして英獨佛を凌駕してゐる
事は注目に値する。而して此等伊、英、佛、獨は大差なく四
千萬より六千萬内外の間にある。日本は世界第六位で昭和五
年の推定高は二千六百萬ポンドであつて世界全産額の六パー
セントに過ぎないがやはり世界の人絹産國の一である。

日本に於ける人造絹絲の活躍状態を見るに左表の通りであ
る。

年 次	數 量	金 額
大正八年	一四〇(千ポンド)	八、四五四(千圓)
同 九年	二〇〇	六七七
同 十年	一五〇	三三四
同 十一年	二五〇	三五五
同 十二年	八〇〇	四七三
同 十三年	二、〇〇〇	五、〇四六
同 十四年	三、〇〇〇	五、一三〇
昭和元年	五、五〇〇	七、八九四
同 二年	一〇、〇〇〇	二五、六〇八
同 三年	一六、五〇〇	
同 四年	二七、〇〇〇	

雜 報

同 五年 三六、〇〇〇

右表によつて明かなるが如く、大正八九年頃から十一年頃
までは其産額漸く十四萬乃至二十五萬ポンドといふ極めて少
量の生産高で人絹會社も僅か七、八會社に過ぎず其利潤も不
良で従つて其生産品も質が不良で一般より所謂人造絹絲とし
て輕視されてゐた。所が日進月歩的な改良を試みられるに及
び質も量も急速な進歩發展を來し大正十四十五年頃より各地に
人絹工場 of 設立を見遂に今日の盛況を來すに至つたものであ
る。

現在我國に於ける人絹會社と其所在地を示すと大體左の通
りである。

會 社 名	工 場 地	月 産 (兩百封度)
東洋レイヨン會社	石 山	四、八〇〇兩
日本レイヨン會社 (三井系)	宇 治	三、〇〇〇
昭和レイヨン會社 (日本紡績)	堅 田	二、五〇〇
(東洋紡績)	米澤、廣島、岩國	一〇、〇〇〇
帝國人絹會社	吉 原	五〇〇
東京人絹會社	膳所、延岡	三、五〇〇
旭絹織會社	津	七〇〇
三重人絹會社	倉敷	一、二〇〇
倉敷人絹會社	名古屋	三〇〇
日本毛織レイヨン會社		

かく現在に於ては合計九社、其資本金約一億圓、年産額三
千六百萬ポンドといふ驚異的な發展を遂げてゐる。

七三

以上述べた如く人絹業は世界各國共に急速的な發展を示し

天然絹絲の領域にすん／＼蠶蝨し來り、其質に於ても天然絹絲のそれに漸次接近し、今後如何程まで科學の力によつて天然絹を完全に凌駕し征服し得るか興味ある問題であると共に世界の養蠶國絹織物國たる我國にとり一大問題であらねばならぬ。

さて人絹がかくの如く短日月の間に大發展を來したかと見ると其原因は多種多様であらうが最も重要な點は左の諸件であらう。

一、原料が極めて豊富なること。

二、天然絹絲の如く、土地、氣温、濕度、雨量等の如く自然的條件に左右されないこと。

三、工業的に其生産は自由にして容易なること。

四、生産品が安價なる事、絹織物と比較にならぬ。

五、生産技術が進歩し絹織物と一見大差なく製造し得ること。

六、時代の影響、安價な物を求め高價品を購入せざること

七、他の織毛(綿絲、蠶絲、毛絲)等と混用し得ること。

八、生産費が低いこと。

以上の理由等が主となり年々發展を遂げて來たが今日に於ては、世界的不景氣にて購買力の劣つた所に其生産過剰に陥り、遂に絲價は暴落に暴落を重ねて、レイヨン會社は殆んど配當一割に及ぶものはない。中には無配當といふものさへもある。今昭和五年度に於ける其生産高と消費高を表示すれば

左の通りである。

昭和五年度重要人絹國生産高と消費高

國 別 生産高 消費高 過生産高

アメリカ 二六、六六六 三〇、〇〇〇 一六、六六六(千ポンド)

イタリー 三、三三〇 二九、九三〇 二、一〇〇

イギリス 四、四〇〇 四〇、七〇〇 三八、五〇〇

ドイツ 五、三三〇 五五、〇〇〇 一八、七〇〇

フランス 二五、三三三 三三、〇〇〇 三、六六六

日 本 二五、〇〇〇 三三、一〇〇 一、九〇〇

オランダ 二、六〇〇 二、六〇〇 〇

ベルギー 七、八〇〇 七、八〇〇 〇

而して全世界の同年度の生産高は四億千九百九十萬ポンドで消費高は三億八千五百九十八萬ポンドであるから差引三千三百九十三萬ポンドといふ莫大な生産過剰を來してゐる。

次に人絹生産高の他纖維原料に對する地位如何を見るに一九一三年世界人絹生産額は生絲の五割棉花の三百三十分の一羊毛の百九分の一であつたが一九二四年に於ては棉花の六十九分一羊毛の十七分の一となり生絲を凌駕すること實に二割となり越えて一九二八年に於ては棉花の三十五分の一、羊毛の十分の一以下となり、生絲に對しては實に三倍四分となつた今來國のフェヤヤー・チャイルド社調査部の世界四大纖維生産比率を示すと左の通りである。

世界四大纖維の生産割合(外務省通商局)

年次 棉花 羊毛 生絲 人絹

一九一三	八・〇	一七・〇	〇・五	〇・五
一九一二	七・五	三・五	〇・五	〇・六
一九二五	八・六	七・五	〇・五	一・〇
一九二六	八・九	七・八	〇・五	一・八
一九二七	七・三	三・七	〇・六	一・七
一九二八	六・五	三・八	〇・三	二・五

かく急速な發展を示して世人を驚歎せしめてゐる。發明家エヂソン翁は五十年後の人絹は生絲を世界市場から驅逐するだらうと豫想し又アメリカのハルマン氏は一九四〇年の人絹産高は現在織物原料中第一位を占め棉花、生絲、羊毛生産額を激減せしむるであらうと言つてゐる。

因に人絹の製法の大要を述べると左の通りである。

一、ゲイスコース法

木材パルプ又は棉パルプを原料とし、此を苛性曹達液に浸し更に二硫化炭素を加へて水に溶解して此を細い孔から稀硫酸液に押出して絲にする。主にアメリカ、伊太利、英、獨逸等で行はれる。

二、醋酸纖維素法

棉花の屑を精製したものを醋酸、アセトン、アルコール等に溶解して此を細い孔より蒸氣中に押出して絲にする。本法は英國に最も盛である。

三、銅アムモニヤ法

前記の精製せる屑または木材パルプを酸化銅アンモニヤ溶液に溶解したものを酸またはアルカリより成る凝固液に押出して絲にする。主に獨逸に盛である。

四、硝化纖維素法

精製屑を硝酸に浸して之にアルコールを加へ溶液とし後、紡絲液(冷水)に押出して絲とする。但しこれは乾式法もある主にアメリカ、ベルギー等に盛に行はれる。(吉田)

○英國の甜菜糖

大戦中砂糖の配給に困難したのでせめて國內消費の一部でも自給せんと考で、英國は一九二四年以來甜菜糖補助法案を通過し、國內甜菜を以て製する白砂糖の一ハンドレッドウェイト毎に十九志六片からの補助金を交付することになつたので、一九二九年度には一五、九五、七〇〇磅といふ多額を支出し、三〇年度にはやゝ減じて五百四十萬磅を支出するといふ勢になつた、過去六年間に、いゝのの影響で消長があつたけれども、補助法の好結果で栽培面積三十萬エーカー、白砂糖の年生産八百萬ハンドレットウェイトに達した。

かやうに甜菜糖が増加するために、従前耕地の放牧場に變ずる憂ふべき傾向が阻止され、玉蜀黍や馬鈴薯の市場の低落に遭つて、代作として甜菜を選んだために危機を去り、勞力を要すること大なるがために農業地への人口分散吸收作用を行つて社會的にも利益であり、その上その栽培のため羊や牧牛の飼料も出來るので、かたがた大に奨励の必要があるので

あるが、最初十九志六片の補助の間は、どうにかやつてゆけたが、一九三〇年以後六志六片に減ぜられるといふことになつて栽培者は利益が少くなつてきた、即會社が補助金の額が少いからといふ理由で、甜菜受け渡し値段を低くする恐がある、しかも一方に栽培面積が増加したから原料は十分にありあまつてゐるので、會社の腰がつよい、會社はその收支計算を明瞭にしないでゐて、利益配當は相當に上げてゐる實情である。既往六年間千六百萬磅からの補助を興へて、たゞ製糖會社のみを利したとあつては面白くない、今や英國の甜菜糖は會社の受渡値段如何によつて、農民がつくるか、つくらぬかといふ際になつてきた、いづれ双方が協調してこの新しい甜菜農業を低地のみでなく、高地に於てもやるやうにするであらうと考へる。

○橋本疊齋會

さきに本誌で橋本宗吉氏の和蘭新譯地球全圖を紹介したところ、今回東京及大阪で電氣關係の雜誌を経営してゐるオームといふ社があり（電氣新報をも出版してゐる）その幹部が中心になつて、大正十五年以來、橋本疊齋會を組織し、橋本宗吉氏の遺蹟を顕彰せんことに努力してゐられることがわかつた。浪岡具雄氏が主として資料蒐集中である。同氏の報告によると大阪本屋仲間の記録が今も猶大阪書林俱樂部に保管されてゐる中に「開板御願書控」といふのがあつて享保九年から明治九年迄の分三十四冊あるとの事である。大阪書籍組合の組長たる博多氏は多分これを知つてゐ

るのであらうと思ふが、もし知つてゐるならば、その中で地理書に關した出版物の目録でも摘出して地球にのせてみたいと思ふ。

同書中に橋本先生の著譯四種を數へるうちに、和蘭新譯地球全圖がある、右は同書第廿二冊にあつて、寛政八辰年十一月出願、同月十八日西奉行所許可、翌年八月上本（納本濟）とあるが閱者水戸長久保赤水、開板人高麗橋一丁目藤屋彌兵衛とのみしか記してゐないとの事である。予が本誌に紹介したのは寛政八年、丙辰冬十一月官許印行で高麗橋一丁目淺野彌兵衛發行である。藤屋ではない。淺野は姓、藤屋は家號であつたのであらう。閱者長赤水の外に、浪華橋本直政伯敏氏製とあるから、宗吉氏の著であつて、平安錢希明了遠市板とあるのは京都堀河佛光寺下ル錢屋七郎兵衛と關係のある人だといふこの錢屋は浪華郷友錄に出てゐる、この圖に序文を書いた浪華佛齋居士曾之唯應聖父といふは曾谷學川である。この圖の發售の店の中に平野町一丁目の曾谷林藏といふのがあるからその本屋と、何等かの關係があつたらしい、たゞし本誌にのせたのは曾谷の名がなく岡田新兵衛の名がでゐるので再版だといはれるのである。只今の處ではこれ以上わからぬが、橋本宗吉は「浪花人物錄」によると安堂寺町橋本宗吉とある。これは安曇氏といふ語に通ずる故に疊齋と號したのであつた。ついで車町に住んだといふことである。エレキテルの著が災をして、身をかくした、後大阪に歸つて車町で歿し

たのであるが、キリスタンだといはれたために、子孫は久しく其姓を秘してゐたといふことを浪岡具雄氏から承はつた。

予はこゝ前に紹介した際に橋本の地圖を以て兩半球圖の初見であるといつた、處が橋本氏に先ち寛政四年に司馬江濱の地球全圖が兩半球圖として日本最初の銅版世界地圖として出してゐる、いづれそれは後日誌上で紹介するが、橋本の世界地圖に比べてやゝ違つた所がある又橋本氏の如く地圖誌をしるしてゐない又「不與買人」と題して發賣をしないことが明にしてある。従つて世上に流布した世界兩半球圖としては橋本の方を推さねばならぬ。けれども兩半球圖は、橋本氏著が先鋒ではなかつた。又グローブラー圖法ではなく、平射圖法であつたことも併せてこゝに明記して、前號の誤を正し知友藤田伊人君の注意を感謝しておく。因に曇齋會は會費三圓であるといふことである、東京神田、錦町三ノ一八オーム社に申込まれたい。(藤田)

○北ローデシアの産業

北ローデシアの面積は二八七、九五〇平方哩、ウガングの約三倍、ニヤザランドの六倍もあるが、人口は百五十萬人と推定される。土人の數が正確でないからわからぬが、一平方哩、五、六の密度だから人口稀薄といふべきである。一九二九年歐人は約一萬人を超過したが、鑛業が盛になるから、五萬人位にはなるらしい。

農業は主として地方的需要を充たす爲の食料品栽培に限られ烟草と玉蜀黍を輸出する。棉花栽培も見込があるが、害虫

の被害が大きい。玉蜀黍と輪作に適するから將來がある。試験的にコーヒ、落花生、サイザル、パピルスがある。何分海外への運送費用が嵩むために發達を阻害するが、歐人經營の農作地は六七、二〇四英町に達し、輸出物として烟草が主であり三、二三二エーカーを作る。

家畜として牛は四七二、五三〇頭土人所有が多い。チエチエ蠅の害をうけない牧場もあるから將來は牧畜も盛になるであらう。バタは年々五五〇磅を輸出してゐる。

農業よりも鑛業はこの地方の財源で銅と錫のみで輸出額の八割に達する。最近まで南アフリカ會社の手にあつたが、目下は保護領になつた。現在、銅、鉛、錫、雲母、バナデウム、金、マンガン、鐵鑛が探掘されてゐる。其資本一〇、〇〇〇、〇〇〇磅に近く過去五ヶ年間に銅と錫と鐵とマンガンは確實に増産した。

水力發電が土地開發に役立つので、ウイクトリヤ瀑に百二十萬馬力の發電所があり、其他の小發電所を合せて一九二八年には八、九三五馬力を供給した。日本からシャツ類の四分一位は輸入されてゐるらしいが、英米との取引は多い。

質疑應答

問。北海道の豆はアメリカでどうなるか。京都 T 生
答。北海道から出る豆のうち長鶏、大手亡、中長鶏は主と